

「地域の保育ニーズに対応した教育・保育施設の確保等について」  
のアンケート調査結果（速報）

2021年7月29日

子ども生活部子育て推進課

## 【調査概要】

### 1. 調査の目的

地域ごとの現状を把握することにより、町田市子ども・子育て会議において、今後の町田市の教育・保育施設（定員）のあり方についてより深い議論を行うために調査を実施するものです。

### 2. 調査対象

町田市内の認可の教育・保育施設

### 3. 調査期間

2021年6月10日から2021年6月24日（30日まで延長）

### 4. 調査方法

メールによる配布・回収

### 5. 回答状況

	対象園数	回答園数	回答率
保育所	69	68	98.6%
幼稚園	24	23	95.8%
こども園	14	13	92.9%
小規模保育所	18	18	100.0%
家庭的保育室	13	11	84.6%
合計	138	133	96.4%

## 【調査結果（まとめ）】

### 1. 全施設に係る項目の回答状況

- ・地域による偏在については、9割以上の施設が認識しており、「ここ数年」の割合が約57%で最も高くなっています。また、10～15年前から認識しているとの回答も複数ありました。（問9）
- ・町田市の保育施設全体の定員（総量）は、「定員割れを起こしている地域の施設は定員を減少させる」が最も多く、次いで「待機児童が多いエリアのみ定員を増やす」が多くなりました。また、その他の意見の中では、「利用定員による対応」が最も多く挙がりました。地域による回答の差はありませんでした。（問11）
- ・定員割れを起こしている場合の有効策については、「実員に応じた利用定員を設定する」が1位で約50%、2位で約30%を占める結果となりました。その他、「認可定員を減少させる」、「他類型の施設へ移行する」、「教育・保育の内容を充実させて、利用者を増加させる」が多く選ばれました。（問12）

### 2. 保育所に係る項目の回答状況

- ・定員の充足状況については、南地域では「ほぼ定員どおり」「弾力している」が高くなり、忠生地域では「ほぼ定員どおり」の回答が最も多いものの、「全体的に定員割れしている」「3歳児以上について、定員割れしている」を合わせると最も高い割合を占めます。鶴川地域については、「3歳児以上について、定員割れしている」と「ほぼ定員どおり」に二極化しました。（問15）
- ・今後の定員については、「実員に応じて利用定員を設定したい」が約55%と最も高くなりました。地域による回答の差はありませんでした。（問16）
- ・20年間期間限定認可保育所の運営については、「継続」と回答した園が50%、「閉園」と回答した園が25%となりました。（問19）

### 3. 幼稚園に係る項目の回答状況

- ・満3歳児クラスについて、「設置したい」、「検討中」を合わせると約8割となっています。（問22）一方、預かり保育については、「実施したい」、「検討中」を合わせても約半数となっています。（問23）

### 4. こども園に係る項目の回答状況

- ・3号児の受入について、「行いたい」「検討中」を合わせると約75%となっています。（問27）

### 5. 小規模保育所に係る項目の回答状況

- ・今後の運営について、約66%が別施設への転用を考えているとの回答でした。南地域のみ、「転用を考えていない」が「転用を考えている」を上回りました。転用の内容

については、「既存園への統合」が約 38%と最も高くなりました。(問 29)

## 6. 今後の町田市の教育・保育施設のあり方についてのご意見

### <認可保育所について>

- ・利用定員の活用や既存施設の活用に関するご意見が多数ありました。
- ・これからは選ばれる時代になるので、質の向上やサービスの充実を図る必要があるというご意見が多数ありました。
- ・保育士に関して、保育士確保策や保育士の負担軽減、職員配置に関するご意見もありました。
- ・施設整備については、これ以上の増設は必要なく、今後の見通しが重要とのご意見が多くありました。

### <幼稚園>

- ・教育の質に関するご意見が多数ありました。
- ・保護者のニーズに対する幼稚園の活用を求めるとのご意見も多数ありました。

### <認定こども園>

- ・質の向上に関するご意見が多くありました。
- ・保育所は 3 号児のみ、その後は幼稚園やこども園へ進級というご意見もありました。

### <小規模保育所>

- ・利用定員の活用や保育士不足、マンション併設保育施設、小規模保育所の継続等多岐に渡るご意見をいただきました。

### <家庭的保育者>

- ・少人数保育に関するご意見が多数ありました。



<問9で“1”を選んだ場合のみ回答>

問9-1 いつ頃から認識していますか。

- 1. 今年度（2021年度）
- 2. ここ数年
- 3. 5年くらい前
- 4. その他（                      ）

	1	2	3	4	無回答	合計
全体	5	71	39	10	0	125
南地域	1	20	11	3	0	35
町田地域	1	15	12	1	0	29
鶴川地域	1	19	3	3	0	26
忠生地域	0	10	9	1	0	20
堺地域	2	7	4	2	0	15

<その他の主な回答>

- ・10年くらい前
- ・15年くらい前（複数）
- ・もっと前から
- ・20年間期間限定認可保育所が開所された頃から
- ・認可を受ける前から
- ・開園2年後くらい



< 2位 >

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	合計
全体	3	3	9	4	16	17	5	15	19	17	2	11	121
南地域	1	1	2	0	6	4	2	3	7	5	0	1	32
町田地域	2	0	1	1	4	7	1	3	5	3	0	3	30
鶴川地域	0	2	3	1	1	3	0	6	3	0	1	4	24
忠生地域	0	0	3	2	2	3	0	0	2	5	1	3	21
堺地域	0	0	0	0	3	0	2	3	2	4	0	0	14

< 3位 >

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	無回答	合計
全体	8	7	6	10	10	16	5	7	10	14	5	11	109
南地域	4	1	2	6	3	3	3	0	2	3	1	1	29
町田地域	1	4	1	0	1	4	1	2	4	4	2	3	27
鶴川地域	2	0	1	0	3	4	0	1	1	3	2	4	21
忠生地域	1	2	2	2	3	1	0	3	1	3	0	3	21
堺地域	0	0	0	2	0	4	1	1	2	1	0	0	11

< その他の主な回答 >

- ・ 既存園を年齢別に割当て、公立保育所を低年齢保育施設、それ以上は幼稚園に入所
- ・ 保育教諭採用のための補助金の拡充
- ・ 保育施設定員の増員



問11 町田市の保育施設全体の定員（総量）についてどのようにお考えですか。（複数回答可）

1. 待機児童が多いエリアのみ定員を増やす  
 2. 定員割れを起こしている地域の施設は定員を減少させる  
 3. 定員割れを起こしている地域は施設数を減少させる  
 4. 町田市全体の定員の総量は現状のまま変えない方がよい  
 5. 地域ごとに定員の総量を決める  
 6. その他（ ）

	1	2	3	4	5	6	無回答	合計
全体	50	62	24	23	30	29	6	224
南地域	18	21	11	3	5	8	1	67
町田地域	10	19	4	6	7	8	2	56
鶴川地域	11	7	4	6	9	7	0	44
忠生地域	3	9	3	6	5	3	3	32
堺地域	8	6	2	2	4	3	0	25

<その他の主な回答>

- ・地域ごとに異なる保育ニーズに応じて柔軟に対応できるような方法が望ましい(複数)
- ・定員割れの地域は、利用定員の変更による対応が必要(複数)
- ・エリアごとでまとめるのは危険、エリアの中ででも差があるため施設ごとで考えたほうが良い
- ・定員の見直し(例えば2歳児以上の定員を増やさない)
- ・数年後にはニーズが減少し定員割れを起こすことが考えられる
- ・全体の定員ではなく、1人の保育者が見る人数の削減、ゆとりをもって充実した保育の実現(補助金を望む)
- ・スクールバスで子どもを迎えに行っているため、地域を越えて預かっている(スクールバスにかかる補助金制度を望む)
- ・保護者が選ぶという視点から見たら何かしら課題があり、選択していないのではないかと、絶対量が少ない・保育施設を選べないという環境は避けるべき
- ・保育園そのものが競争の時代に突入してきている証拠、現況維持で良い
- ・保育士の人材確保が優先



< 2位 >

	1	2	3	4	5	6	7	8	無回答	合計
全体	12	33	4	11	27	2	17	2	6	114
南地域	4	10	0	3	7	0	3	0	2	29
町田地域	2	8	1	1	6	1	6	1	2	28
鶴川地域	2	7	2	4	5	1	2	0	0	23
忠生地域	2	5	1	1	5	0	3	1	2	20
堺地域	2	3	0	2	4	0	3	0	0	14

< その他の主な回答 >

- ・ 20年間期間限定認可保育所や小規模保育所は閉園でもよいのではないか

< 3位 >

	1	2	3	4	5	6	7	8	無回答	合計
全体	22	4	5	10	11	8	10	5	6	81
南地域	8	0	3	3	6	1	0	1	2	24
町田地域	4	2	0	3	2	5	1	1	2	20
鶴川地域	2	1	0	2	2	0	4	1	0	12
忠生地域	4	0	2	1	1	2	2	0	2	14
堺地域	4	1	0	1	0	0	3	2	0	11

< その他の主な回答 >

- ・ 現状維持

【問13～問19】認可保育所対象

問13 施設の老朽化による建替えについてお答えください。

1. 数年以内に建替えを行いたい  
 2. 将来的（10年前後）には建替えを行いたい  
 3. 検討中  
 4. 建替えは考えていない  
 5. その他（ ）

	1	2	3	4	5	無回答	合計
全体	5	8	5	26	19	5	68
南地域	2	3	1	2	7	2	17
町田地域	0	3	0	8	4	1	16
鶴川地域	2	1	1	7	1	0	12
忠生地域	1	1	2	6	3	2	15
堺地域	0	0	1	3	4	0	8

<その他の主な回答>

- ・将来的に（10年以上先）（複数）
- ・長期計画にて検討
- ・現段階では分からない
- ・建物の構造上、建替えられない
- ・すぐにでも建替えたいが、都営住宅併設のため法人だけの意思決定ではできない
- ・団地の建替え方針に沿うようになると思われる
- ・貸主との協議による
- ・0、1、2歳に合わせたハード面を作りたい
- ・老朽化により大規模修繕を終えたばかり



問15 現在の定員の充足状況についてお答えください。

1. 全体的に定員割れしている  
 2. 3歳児以上について、定員割れしている  
 3. ほぼ定員どおり  
 4. 弾力している  
 5. その他 ( )

	1	2	3	4	5	無回答	合計
全体	7	20	24	8	5	4	68
南地域	1	3	6	5	1	1	17
町田地域	1	4	5	2	3	1	16
鶴川地域	0	7	5	0	0	0	12
忠生地域	3	4	5	0	1	2	15
堺地域	2	2	3	1	0	0	8

<その他の主な回答>  
 ・3歳児以上については5年以上定員割れが続いており、今年度は0歳児も定員割れ  
 ・2歳児以上で定員割れ(複数)  
 ・1歳児のみ定員割れ



問17★ 閉園せざるを得なくなった場合、どのような方策が有効だとお考えですか。  
(複数回答可)

<input type="checkbox"/> 1. 高齢者施設等の他の福祉施設へ転用する <input type="checkbox"/> 2. 同一法人で複数園運営している場合、分園や小規模保育所等へ転用する <input type="checkbox"/> 3. 一時預かりやひろば事業等を行う施設へ転用する <input type="checkbox"/> 4. その他 ( )
---

	1	2	3	4	無回答	合計
全体	16	24	19	21	10	90
南地域	3	8	5	7	1	24
町田地域	5	4	5	5	2	21
鶴川地域	4	4	3	3	2	16
忠生地域	4	3	4	3	4	18
堺地域	0	5	2	3	1	11

<p>&lt;その他の主な回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや子育て世帯が利用できる子どもセンターとしての活用</li> <li>・地域のコミュニティーの場や一時預かりの場等</li> <li>・その時点でニーズのある福祉系事業所に転用</li> <li>・その時の地域のニーズにより再考</li> <li>・閉園は視野にない、その時点で考える</li> <li>・職員の処遇まで考えると思いつかない</li> <li>・法人本部の方針次第</li> <li>・閉園は想定していない</li> <li>・UR から無償で借りている土地なのでお返しすることになるだろう</li> <li>・後 10 年で閉園する</li> </ul>
---



問18★ 定員を減らしたり、閉園したりせざるを得なくなった場合、保育士の処遇について、どのような方策をとるべきだとお考えですか。

(複数回答可)

<input type="checkbox"/> 1. 計画的に人数を減らしていく <input type="checkbox"/> 2. 新規の採用を行わない <input type="checkbox"/> 3. 法人内で複数園運営している場合、異動等で対応する <input type="checkbox"/> 4. その他 ( )
--

	1	2	3	4	無回答	合計
全体	34	39	43	6	6	128
南地域	8	13	12	1	1	35
町田地域	10	7	10	1	1	29
鶴川地域	8	7	7	2	1	25
忠生地域	4	7	7	2	3	23
堺地域	4	5	7	0	0	16

<p>&lt;その他の主な回答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・閉園でなければ、新規の採用は行っていく</li> <li>・姉妹園での受入れにも限度があり解雇しかない</li> <li>・他認可施設に出向、ベビーシッター講座を受けて困っている家庭へ派遣する</li> <li>・関係園に異動</li> </ul>
--

< 20年型のみ回答 >

問19 20年間経過後も運営の継続を考えていますか。現時点でのお考えをお答えください。

<input type="checkbox"/> 1. 20年経過後も運営を継続する <input type="checkbox"/> 2. 入所状況によっては継続する <input type="checkbox"/> 3. 入所状況によっては閉園する <input type="checkbox"/> 4. 20年経過したら閉園する <input type="checkbox"/> 5. 20年経過したら一時預かりや子育てひろば事業等を行う施設に転用する <input type="checkbox"/> 6. その他 ( )
--

	1	2	3	4	5	6	無回答	合計
全体	5	5	3	2	0	3	2	20
南地域	1	2	1	0	0	0	0	4
町田地域	1	2	0	0	0	0	1	4
鶴川地域	2	0	1	0	0	1	0	4
忠生地域	0	0	0	2	0	1	1	4
堺地域	1	1	1	0	0	1	0	4

< その他の主な回答 > ・入所状況によって転用または継続することを検討中 ・オーナーの考えがあるので、今のところ何とも言えない
--



問 2 1 現在の定員の充足状況についてお答えください。

1. 全体的に定員割れしている  
 2. ほぼ定員どおり  
 3. 利用定員で調整している  
 4. その他 ( )

	1	2	3	4	無回答	合計
全体	14	1	5	3	0	23
南地域	6	0	2	0	0	8
町田地域	2	0	1	2	0	5
鶴川地域	3	1	2	0	0	6
忠生地域	0	0	0	1	0	1
堺地域	3	0	0	0	0	3

<その他の主な回答>  
 ・実情に合わせてからは、ほぼ充足してきている  
 ・定員よりやや少ない  
 ・認可定員には満たないが、質の高い教育を行うには適正の園児数と考える

問 2 2 満 3 歳児クラスを設置していますか。

1. はい       2. いいえ

	1	2	無回答	合計
全体	3	18	2	23
南地域	2	6	0	8
町田地域	1	3	1	5
鶴川地域	0	6	0	6
忠生地域	0	1	0	1
堺地域	0	2	1	3

<問22で“2”を選んだ場合のみ回答>

問22-1 満3歳児クラスの設置について、今後のお考えをお答えください。

<input type="checkbox"/> 1. 設置したい <input type="checkbox"/> 2. 条件が整えば、設置したい <input type="checkbox"/> 3. 検討中 <input type="checkbox"/> 4. 設置するつもりはない <input type="checkbox"/> 5. その他 ( )
---

	1	2	3	4	5	無回答	合計
全体	7	3	6	2	2	0	20
南地域	2	2	1	1	0	0	6
町田地域	2	0	1	1	0	0	4
鶴川地域	2	0	3	0	1	0	6
忠生地域	1	0	0	0	0	0	1
堺地域	0	1	1	0	1	0	3

<その他の主な回答> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状では検討議題になっていない</li> <li>・教室がなく、満3歳児のクラス運営への見通しが不明なため、踏み切れない</li> <li>・設備や教員が足りない</li> </ul>
--

問23 一時預かり事業（幼稚園型Ⅱ）※を実施していますか。

※一時預かり事業（幼稚園型Ⅱ）とは、幼稚園が満3歳未満の保育を必要とする子どもに定期的な預かりを行うものです。

<input type="checkbox"/> 1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ
--

	1	2	無回答	合計
全体	3	20	0	23
南地域	1	7	0	8
町田地域	1	4	0	5
鶴川地域	1	5	0	6
忠生地域	0	1	0	1
堺地域	0	3	0	3

<問23で“1”を選んだ場合のみ回答>

問23-1 幼稚園型Ⅱの預かり保育の実施についてのお考えをお答えください。

1. 今後、1歳児の預かりも実施したい  
 2. 2歳児の預かりのみで継続したい  
 3. その他 ( )

	1	2	3	無回答	合計
全体	1	1	1	0	3
南地域	0	0	1	0	1
町田地域	0	1	0	0	1
鶴川地域	1	0	0	0	1
忠生地域	0	0	0	0	0
堺地域	0	0	0	0	0

<その他の主な回答>

- ・検討中











【問28～問29】小規模保育所対象

問28 10年間経過後も運営の継続を考えていますか。現時点でのお考えをお答えください。

1. 10年経過後も運営を継続する  
 2. 入所状況によっては継続する  
 3. 入所状況によっては閉園する  
 4. 10年経過したら閉園する  
 5. その他 ( )

	1	2	3	4	5	無回答	合計
全体	8	3	3	0	2	2	18
南地域	3	0	2	0	0	2	7
町田地域	5	2	0	0	0	0	7
鶴川地域	0	0	1	0	2	0	3
忠生地域	0	0	0	0	0	0	0
堺地域	0	1	0	0	0	0	1

<その他の主な回答>  
 ・入所状況によって転用または閉園を検討中（複数）

問29★ 今後、貴施設を別施設へ転用することを考えていますか。

1. はい       2. いいえ

	1	2	無回答	合計
全体	12	6	0	18
南地域	3	4	0	7
町田地域	6	1	0	7
鶴川地域	2	1	0	3
忠生地域	0	0	0	0
堺地域	1	0	0	1

問29-1★ どのような転用を考えていますか。(複数回答可)

1. 既存園への統合(分園化)  
 2. 既存園への統合(認定こども園の3号児施設)  
 3. 一時預かり施設や子育て支援施設への転用  
 4. 子ども関係以外の福祉施設(高齢者施設等)への転用  
 5. その他( )

	1	2	3	4	5	無回答	合計
全体	5	0	1	0	3	4	13
南地域	3	0	0	0	0	0	3
町田地域	1	0	1	0	1	4	7
鶴川地域	0	0	0	0	2	0	2
忠生地域	0	0	0	0	0	0	0
堺地域	1	0	0	0	0	0	1

- <その他の主な回答>
- ・送迎ステーション(複数)
  - ・母体園の分園

### 【問30】全施設対象

問30 今後の町田市の教育・保育施設のあり方についてご意見のある方はご記入ください。

<認可保育所の主な回答>※南地域

#### 【定員に関すること】

- ・利用定員の活用等各園の状況に応じた柔軟対応を望む
- ・面積と保育士数の可能な範囲での弾力対応や利用定員の活用が解決策になるのでは
- ・定員割れしている施設は利用定員の活用により、在園児が減少しても運営費が減額とならないようにする
- ・子どもの数や生産年齢人口の減少、コロナによる就労人口の減少などで定員割れが顕著になっている（保育施設の整備問題は急務）

#### 【質に関すること】

- ・「子どもに優しい街・町田」を創れると良い
- ・入所希望者は保育の質や利用者サービス等各施設の中身の違いで施設を選ぶようになる
- ・選ばれる施設とそうでない施設の差は必ず出てくるため、園児獲得競争になる
- ・教育・保育施設として特徴があり、適正な施設運営を行っている園が地域の担い手となるような施設づくりを目指す
- ・子育てのしやすい環境と共に保護者力の支援等総合的に行うことで少子化対策と教育・保育施設の充実を目指す
- ・既存の教育・保育施設の充実を図り、安定的な運営ができるようにするべき
- ・施設種別や就労・在宅に関わらず、町田市全体で子どもの成長をバックアップ（見守り）できるような環境づくり
- ・制度は知識だけではなくどう知恵に変えて保育行政や子育て支援を充実させるかが課題

#### 【保育士・教諭に関すること】

- ・保育士不足の園は保育士確保に向けた動きが必要
- ・保育施設は維持しつつもその施設を使用できるよう、職員向けに介護等の資格取得の支援

#### 【整備に関すること】

- ・定員割れの地域・園は、施設の規模縮小、他の事業立ち上げ等それぞれの状況に応じて行わなければならない
- ・今後は人数調整のしやすいかたち、既存園の活用、施設が存続できるかたちを望む
- ・既存の施設をうまく活用していくことが望ましい
- ・市と保育園が協同で将来の見通しと町田市のニーズを共有し、今後の計画等につなげなければならない
- ・近い将来、保育園が過剰となる
- ・ハコモノの増やし過ぎは問題がある

<認可保育所の主な回答>

- ・縮小等を含めて、今後をどのように見通すのか
- ・今後、少子化が進むと考えると単に施設を増やすばかりが得策ではない
- ・待機児童が多いときは施設を増やし、子どもが減り定員割れが起きたら縮小と簡単にはできないので、長期的に検討、相談が必要
- ・新規園の設置は、その後の運営費や保育士採用を考えると、今後は市の財政的にも厳しいと考える
- ・定員割れについても念頭に入れた保育施設の設置
- ・大型マンション等の開発の際にマンション内に保育施設を設置することを望む
- ・少子化により、今後は都内でも施設整備による定員拡大は終わり、自治体による入所児童の利用調整も徐々に直接契約に移行していくと考えられる

【その他】

- ・地域差がとてもある状態
- ・子どもが集まる政策を検討する必要がある
- ・子どもの出生率を上げるための案を考えるべき
- ・女性の就業率がどの程度上がるのか（100%の時代が来るのか）、家庭保育の子どもも0歳児から保育園全入・義務保育教育時代がくるのか等の予測により今後の見通しは変わる
- ・地域定員や各園の入所児童の平均化を図るのではなく、入所を希望した園に優先して入れるような制度設計にしていくことが望ましい
- ・園側の努力も必要であり、行政と双方の協力が必要
- ・近隣市の子ども（管外児）の入所の優先度を上げ（町田市民と同様の入所基準とする等）、定員割れが起きている地域へ入所させる等町田市全体で取り組む必要がある（近隣市との連携も含めて）
- ・複合的な理由で経営が圧迫されている園がいくつもある

<認可保育所の主な回答>※町田地域

【定員に関すること】

- ・利用定員の活用等園の運営に支障がでないように制度設計の見直しが必要
- ・募集人数よりも応募人数が少ない状態が続く場合、定員変更も考えなければならない

【質に関すること】

- ・今後は選ばれる側になるので、各施設の質の向上に努めるべき
- ・保育の質の向上への取組みが必要（町田ならではの保育、魅力の向上）、人材育成においても有効
- ・未就学児にとって余裕のある十分な教育・保育スペースの確保と職員の質の向上、余裕ある職員配置を進めていくべき
- ・保育園は地域における大切な社会資源のため、どのような活動や取り組み（地域資源の利用等）があるのか、良い事例の共有
- ・近隣保育所で共同して、イベントを行う等の協働作業により、町田の子育て資源の広がりがあるのでは
- ・研修の実施について、いつでも視聴可能な動画配信等市にも協力してほしい
- ・未来担う子どもたちを大切に育てていける環境を守っていききたい
- ・低年齢児保育園は、進級先の保育園の様子を見せる等の連携が必要
- ・良質な保育を提供する（地域に根差し、子ども第一主義で運営している）法人をしっかりと見極め、存続する方法を検討すべき

【保育士・教諭に関すること】

- ・保育士不足が喫緊の課題（基準保育士数を満たすだけでは、保育体制としては不十分）
- ・保育士にも働きやすい環境を提供し、保育士の負担軽減を図る
- ・保育士が保育の業務（保育園勤務）だけではなく、子育ての知識を具体的に伝える役割等、幅広い活動の場があると良い
- ・保育士の未来を守っていききたい
- ・職員同士のつながりもできれば、足りていない他施設に保育士を送ること等できるのではないか

【整備に関すること】

- ・待機児童が減り、定員割れが生じている状況ではこれ以上の施設整備は必要ない
- ・子どもの数は減少傾向にあるので、今後は駅近の園も定員割れを起こすのは必至
- ・乳幼児人口の増加が見込めなくなるのであれば、保育園自体の縮小もあり得るが、縮小するには、大変ハードルが高い
- ・あとどのくらいの整備を求めているのか、先々破綻をきたすことにならないか懸念される
- ・保育園と高齢者施設の合併（複合化）も将来的に考えていければ、未来型の重要な施設へとつながると思うが、施設設置には補助金が必要
- ・20年間期間限定認可保育所や小規模保育所はニーズがなければ閉園

<認可保育所の主な回答>

【その他】

- ・これからの保育ニーズの把握、教育・保育のあり方、保育所等の役割
- ・市の主体的な保育行政の取り組みが必要（保育における施策について、各施設へ市の方針等を伝えてほしい）
- ・働き方改革や新型コロナによる保育ニーズや幼児教育、子育てに対する保護者の考え方の変化
- ・待機児童解消のため、弾力等により対応してきた
- ・20年間期間限定保育所の整備や各園の弾力対応、定員の見直し等により待機児童は解消傾向にあると考える
- ・子どもの減少や保護者のニーズに合わせ、臨機応変に対応出来るような保育を行う
- ・就労要件等保育が必要な場合の施設の利用（土曜日保育含む）
- ・小規模保育所の整備は、駅前を中心に徒歩数分ほどの間隔で複数園設置され、園と園との距離も関係なしになっている
- ・駅近の利便性ばかりにとらわれると駅から離れた園はさらに運営が厳しくなる
- ・「閉園」という言葉が出てくるほど切羽詰まった状況だと考えると、一日でも早く町田市の指針を示してほしい
- ・少なくとも8年以上前からこのような事態が起こることを想定して、注意喚起をしてきた

<認可保育所の主な回答>※鶴川地域

【定員に関すること】

- ・定員割れに対しては、利用定員を活用すべき（新設園の暫定定員ではすでに活用している）
- ・在園児が減少した場合でも安定した運営ができるよう、利用定員を活用したい
- ・すでに0, 1, 2歳児の定員割れも発生している（早急な対応が必要）

【質に関すること】

- ・産み育てやすい環境を創り出していくことが益々重要になる
- ・少子化が進む場合でも、保育の質を高めるチャンスと捉え、「保育の町田」「子育てするなら町田」と言われるような魅力向上
- ・7時から20時まで保育を保障するという保育過多の実態を変える必要がある（長時間保育は子どもの体と心に過度の負担を負わせる）

【保育士・教諭に関すること】

- ・保育士の専門性を高めていく必要がある（人材が育っていない）
- ・保育者の長時間労働や残業の常態化の改善が必要
- ・既存の施設及びそこで働いている職員を守ることが必要
- ・移転については、市内の定員総量は変わらないとしても、そこで働く職員の通勤や家庭生活への影響も考える必要がある
- ・園同士が近くなると、職員の融通が効かせやすくなる効果等期待できる



<認可保育所の主な回答>

**【整備に関すること】**

- ・定員割れが課題となっている現状では、待機児童対策として保育所整備をしては、近い将来の破綻が確実
- ・待機児童は弾力で受け入れるべき
- ・待機児童が減り、定員割れが生じているからといってすぐに保育園を減らすべきではない
- ・施設整備による定員の拡充が必要であるならば、分園が現実的なのではないか

**【その他】**

- ・少子高齢化社会が現実化してきたものと理解している
- ・女性の晩婚化傾向が少子化にかなりの面で影響している
- ・リモートによる働き方改革がますます顕著化し、在宅で仕事ができるようになる等、保育園の必要性がなくなるのではないかと危惧している
- ・少子化をくい止める方策を考え、実践する必要がある
- ・少子化は進行しているが、一方で様々な少子化対策が行われている。諸外国では少子化対策に成功し、出生率が回復している事例もある
- ・将来出生率が回復したらすぐに待機児童が発生するようではいけない
- ・少子化対策の目標値を定め、出生率が上がる想定をし、その目標値に向けて市内の理想とする児童数を割り出し、その分の定員は最低限確保すべき
- ・待機児童数だけでなく、欠員も同様に公表すべき
- ・福祉施設だからといって単純に転用することはできない
- ・地域をまたいで複数園運営している法人は、法人本部がある地域に施設を移転してはどうか（特に南地域に法人本部がある場合、他地域で定員割れしている園を南地域に移転させるのが良いのでは）
- ・20時までの保育ニーズは少ないので、地域ごとに19時までと20時まで開所している施設のバランスを見て、20時まで保育が必要な家庭が20時まで開所している園に優先して入園できる等、個々の園ではできないようなアプローチで、市が中心となって、保育施設について考えてほしい

<認可保育所の主な回答>※忠生地域

**【定員に関すること】**

- ・利用定員の活用、0歳児の補償費のように1～5歳児までの補償を望む

**【質に関すること】**

- ・長年良質な保育の提供を第一に、目の前にいる子どもたちのために費用を充てて運営してきている

<認可保育所の主な回答>

**【保育士・教諭に関すること】**

- ・ 正規職員が不足し、派遣職員を雇用すると人件費がかさむ
- ・ 求職者が市内の保育園を選択肢から外さないような取り組みを行って保育士不足を解消
- ・ 他の自治体では保育士に対して給与とは別に自治体からの手当や奨学金返済の補助を支給する制度等があると聞く
- ・ 職員配置の検討が必要（非常勤や無資格でも保育補助の経験が一定年数以上ある場合、配置数にカウントできるようにする等）
- ・ 職員配置の検討による人件費抑制

**【整備に関すること】**

- ・ 少子化が進む中で、施設を増やして待機児童が解消されたとしても、定員割れで運営が逼迫することが推測される
- ・ 既存施設で待機児童を受け入れできるよう望む

**【その他】**

- ・ 忠生地域は待機児童が少ない状況となり、今後の園児数は危機的な状況になるのでは
- ・ 忠生地域は子どもの数も少なく、幼稚園のこども園化や保育園も多い
- ・ 最も待機児童の少ない忠生地域は特に平等に扱ってほしい
- ・ 保育所を続けていくにはどのような策を行えば良いか市からもアドバイス等を望む
- ・ 小規模保育所が複数園できているが、各施設が子どもをかき集めるためのバス送迎を行うのではないかと懸念される
- ・ 送迎ステーションのシステムが全園平等の政策となると良い
- ・ 定員割れや補助金のカット等で経営、運営が難しくなっている
- ・ 20年間期間限定認可保育所が20年後も運営を継続したいが、賃貸物件は市からの賃借料補助がなくなると経営が厳しい（定員割れとなると更に厳しい）
- ・ 現状や時代にあった対応をするべき
- ・ 仕事の事情よりも保護者の精神疾患、育児能力の不足等、子育てのサポートの必要性のある方の預かりが多くなってきている
- ・ 特に夜間の子育てサポートが不足しているのではないかと（医療機関と同様、24時間サポートが必要）
- ・ 親子の関係性や絆づくりの重要性から、病気の際は保護者の看護のもとで過ごす方が良いと考えていたが、体調不良児・病後児保育等、育児の手助けの重要性を感じている
- ・ 保育施策については突然の決定や変更を行わず、事前に納得のできる説明が必要

<認可保育所の主な回答>※堺地域

【整備に関すること】

- ・少子化なので、施設数を増やさず、定員等をその時の状況により変動させていく等、地域内で相談して柔軟に対応できると良い

【その他】

- ・小山ヶ丘地区は現在定員割れしているが、リニアモーターカーの運用や地域的に開発が進むことによりまだまだ状況が変動する地域と考える
- ・地域への事業を拡げ、賃借料も考えながら少人数でも運営ができると良い
- ・送迎ステーション等あると良い
- ・保育施設の入園申込の際に、他の市町村のように第6希望くらいまで書けると良い

<幼稚園の主な回答>

【定員に関すること】

- ・定員の総量について、弾力的な運用を望む

【質に関すること】

- ・市としてこれからの時代に合った教育の場をいかに提供できるか検討する必要がある
- ・長時間一人ひとりの子どもを責任を持って預かるためには、人と施設整備の充実が欠かせない（助成金を望む）
- ・保育の器を拡充し、待機児童対策に力を入れることは大切だが、それと同時にどのような教育を行うかがより重要
- ・少子化だからこそ一人ひとりの生まれてきた子どもを大切に育てていけるように、教員、保育施設に予算をかけて充実させていくことが必要
- ・一人の教員が担当する人数を減らし、丁寧に子どもを受け止められることが大切
- ・今まで以上に企業努力をし、令和の経営・保育にシフトしないと生き残りができない

【保育士・教諭に関すること】

- ・幼稚園教諭の不足も深刻であり、それも踏まえた施設整備の計画を望む

【整備に関すること】

- ・現状に合わせ 20 年間期間限定認可保育所や小規模保育所は閉園しても良いのではないかと

【その他】

- ・選択肢として教育施設である幼稚園が（可能な範囲で預かり保育等を行い）存在していくことも必要
- ・保育を必要とする保護者の中には、教育に関心の高い保護者も一定数いると考えられ、幼稚園はそのようなニーズに応えられると考える（施設面等の整備に関して支援が必要）
- ・ますます共働き世帯が増える中で、教育と保育の両面で幼稚園の活用があるのではないかと
- ・私学助成園に対しても、継続的な支援を望む
- ・定員割れだからといってすぐに待機児童を責任を持って預かることができない

<幼稚園の主な回答>

- ・幼稚園は長時間子どもを預かる場所ではなかったため、設備、人の配置等長時間預かるようにつくられていない
- ・施設、設備は不十分で、人材の確保にも様々な課題があるが、なんとか方法を考え、やりくりし、預かり保育を運営している
- ・様々なノウハウを持った施設等に場所だけ提供するようなスタイルをとることで、市の取り組みに貢献したい
- ・施設類型によって保護者の負担に差が生じているのではないかと、保護者がどの施設も選択できるように保護者負担の是正を望む
- ・送迎ステーションは各駅に設けるか、一定の利用人口に応じて設置を勧める必要がある
- ・待機児解消のため20年間期間限定保育所、小規模保育所を設置しているが、現在少子化により幼稚園・保育園の定員割れが起きている
- ・堺地区は園児の減少はなかなかくい止められない
- ・小山ヶ丘の大型マンションに町田・相模原・八王子・多摩の幼稚園が集まるだろう
- ・自由競争だから当たり前だが、町田市内の数園が一人勝ちのような状態となっている
- ・大きな事業計画があり、教育改革を行うには、将来的な町田市の教育・保育の方向を定めなければならない

<認定こども園の主な回答>

**【質に関すること】**

- ・今後は選ばれる側になるので、各施設の質の向上に努めるべき
- ・未就学児にとって余裕のある十分な教育・保育スペースの確保と職員の質の向上、余裕ある職員配置を進めていくべき
- ・教育・保育施設の自助努力で回避できる園も存在すると考える（行政の応援を望む）
- ・地域のこども、子育て世代のご家庭のこと、広い視野をもち施設運営を行っていく
- ・子ども、福祉のたねであれば、施設の目的外使用も可能にしてほしい（空き教室の活用などによる子育て支援）

**【保育士・教諭に関すること】**

- ・安定した質のよい教育・保育職員の確保ができるような取り組みが必要
- ・保育士・看護師・栄養士等の複数所属の解禁による担い手不足と働き方改革を進める
- ・現場にいる者は子どもたち、保護者のためにできることを精一杯尽力していく

**【整備に関すること】**

- ・今後の開発等を踏まえた地域の配置を考えてほしい
- ・南町田地域の乳幼児対応については、大規模マンション等の建設の際にマンション内に時限立法的な保育施設を設置できないか

<認定こども園の主な回答>

【その他】

- ・乳幼児の減少は更に進むと考える
- ・少子化に伴い現状の保育所等の充足率はかなり下がっている
- ・究極的には市内にて運営している教育・保育施設は自然淘汰が進むと考える
- ・認可保育所等は定員減での対応が出来るかどうか、各施設の申請によって行える様にした方が良い（現状で充足率の高い園もある）
- ・保護者が選び、どの方も利用できるようになると、少しでも地域格差が減るのではないか
- ・待機児童解消のため、弾力等により対応してきた
- ・待機児童がいる地域、定員割れしている地域と格差があるのは、町田市だけではなく、どの地域にもあって仕方がないこと
- ・受入を増やすなら 3 号児のみの認可保育所にし、その後は認定こども園や幼稚園に入園（進級）すればよいのではないか
- ・変動期にあるため、全体をみた町田市の乳幼児、児童の施策を望む
- ・町田駅で行っている多方面へ送迎を行うステーションを、もう少し充実させる
- ・市がすべて統括し、ステーションを利用したい幼稚園・保育園の枠を超えて、市内のすべての園を対象とする等
- ・満3歳児クラスの充実
- ・3号児の受け入れ検討
- ・認定こども園の4類型は近い将来、幼保連携型に統一されるだろう
- ・障がい児通園補助金の増額
- ・「保育教諭等配置事業」補助金の制限緩和（常勤2人の給付又は常勤と非常勤の併給への拡大等）
- ・人口減少時代にふさわしい施設の「在り方」を自治体から発信してほしい
- ・「保育の必要性・公平性」から「地域全ての子どものための施設」への転換
- ・「子育て支援」の加算項目の拡充（各施設の創意工夫に任せてほしい）
- ・ひろば事業（特にⅣ型）の増加（空き教室、空き店舗の活用）
- ・「県境」の町田なので、他自治体との施設機能や申請制度の共通化およびシェアリング
- ・子どもの複数園所属の解禁、一時保育利用の解禁（親のテレワーク等の働き方改革に対応、地方では可）
- ・国の提示する多拠点ステーションの加算補助
- ・市内の賃料格差（駅前と周辺）の解消加算
- ・保護者への支援拡充（交通弱者、収入格差、情報格差への課題対応ができる施設へ）
- ・保育所・幼稚園などの枠にとらわれない「子ども」を中心として考える市内機関の設置
- ・都と見解がずれない行政間情報共有、統一見解の確立

<小規模保育所の主な回答>

【定員に関すること】

- ・在園児が減少した場合でも安定した運営ができるよう、利用定員を活用したい

【質に関すること】

- ・教育・保育施設の自助努力で回避できる園も存在すると考える（行政の応援を望む）
- ・子ども、福祉のたねであれば、施設の目的外使用も可能にしてほしい（空き教室の活用などによる子育て支援）

【保育士・教諭に関すること】

- ・保育士・看護師・栄養士等の複数所属の解禁による担い手不足と働き方改革を進める
- ・求人や保育士不足の問題等、町田市として取り組み、改善していくことが多いと感じる

【整備に関すること】

- ・南町田地域の乳幼児対応については、大規模マンション等の建設の際にマンション内に時限立法的な保育施設を設置できないか（これ以上施設をつくると、近い将来南町田周辺も相原・小山・忠生地域のような状況になるだろう）

【その他】

- ・乳幼児の減少は更に進むと考える
- ・少子化に伴い現状の保育所等の充足率はかなり下がっている
- ・究極的には市内にて運営している教育・保育施設は自然淘汰が進むと考える
- ・認可保育所等は定員減での対応が出来るかどうか、各施設の申請によって行える様にした方が良い（現状で充足率の高い園もある）
- ・20年間期間限定認可保育所や小規模保育所は、期間末期において施設が継続できるのか、不安が残る。需要等がある場合には補助等を含み継続を希望
- ・変動期にあるため、全体をみた町田市の乳幼児、児童の施策を望む
- ・質・量共に適切な保育を提供できるよう、今後とも先を見越した計画を進めてほしい
- ・人口減少時代にふさわしい施設の「在り方」を自治体から発信してほしい
- ・「保育の必要性・公平性」から「地域全ての子どものための施設」への転換
- ・「子育て支援」の加算項目の拡充（各施設の創意工夫に任せてほしい）
- ・ひろば事業（特にIV型）の増加（空き教室、空き店舗の活用）
- ・「県境」の町田なので、他自治体との施設機能や申請制度の共通化およびシェアリング
- ・子どもの複数園所属の解禁、一時保育利用の解禁（親のテレワーク等の働き方改革に対応、地方では可）
- ・国の提示する多拠点ステーションの加算補助
- ・市内の賃料格差（駅前と周辺）の解消加算
- ・保護者への支援拡充（交通弱者、収入格差、情報格差への課題対応ができる施設へ）
- ・保育所・幼稚園などの枠にとらわれない「子ども」を中心として考える市内機関の設置
- ・都と見解がずれない行政間情報共有、統一見解の確立

<小規模保育所の主な回答>

- ・ 保育ニーズの把握は勿論のこと、時代の変化に伴ったシステム作りが必要
- ・ 公立保育園は民営化し、町田市の保育は民間で行えるようにすべき
- ・ 認可施設として市の運営に対してきちんと意見し、我々も多方面に向けて改善の努力はしつつも、町田市が大きなかじ取りをしていくべき
- ・ 現在の施設を将来は母体園の分園にしたい

<家庭的保育室の主な回答>

**【質に関すること】**

- ・ 子どもや保護者にとって、少人数の家庭的保育室はとても貴重な存在だと考える
- ・ 家庭的保育は低年齢児にとっても合っている
- ・ 今後、保護者の保育施設選びの選択肢となれるよう保育を充実させる
- ・ 子どもの人数が減少していくのであれば、手厚く保育することができる
- ・ 保育現場は、少人数制を導入し、一人一人の言動や行動をしっかりと救い上げていくことを目標とする
- ・ 乳幼児期に、ゆったりと、じっくりと関われる大人や子どもたちのコミュニティーの中で、その子がその子らしく成長していくことを守ることで非認知能力が育ち、自分が進みたい道を進むための基礎を効果的に育むことができると考える

**【整備に関すること】**

- ・ 施設をたくさんつくり何年後かに子どもが減って定員割れしたときどうするのかという先のことも考えて慎重に決めるべき
- ・ 待機児童解消は、ただ施設を増やすのではなく、将来を見据えて既存施設の工夫が必要
- ・ 定員割れをしている地域にはこれ以上新規施設をつくらない等一刻も早い方策を打ち出すべき

**【その他】**

- ・ 入所選考の際には、規模の小さい施設から優先的に定員を満たせるようにしてほしい
- ・ 家庭的保育の法人化検討